

軍歌集

51
18
707



凡例

一 單唱ハ部長之ヲ唱ヘ合唱ハ其部下一同之ヲ唱歌スル者トス假令ハ部長出征歌ノ第一章ヲ唱歌シ了レハ直チニ其部下一齊ニ合唱ヲ唱歌シ四步或ハ六步ヲ行進シ更ニ部長其第二章ヲ唱歌シ了レハ部下亦直ニ前ト同ク合唱ヲ唱歌スル者ナリ(單唱ハ單獨ニテ唱歌スルヨリ若干名ヲ撰拔シテ一團トナシ之ヲ唱歌セシムルヲ長トス其法單唱ノ一ニ對スル合唱ノ三乃至五ノ比例ヲ適當トス)

一 單唱ノミ相互ニ唱歌スルコアリ然キハ部長出征歌ノ第一章第一句ヲ唱歌シ了レハ其部下復々同ク其第一章第一句ヲ合唱スル者トス

一 曲譜ハ左ヨリ讀ム者ナリ其左頭ニ前第一トアルハ本文第一章ノ前二句假令ハ出征歌ノ「今般征伐ツ敵國ハ世界ニヒビク文明ノ」ノ一二句ヲ指ス又後第一トハ其後ノ二句即チ富強ニ誇ル傲慢ノ無道ノ振舞最ト惡キノ三四句ヲ指スナリ

一 譜曲ニ用タル假名ノ内ニ於テ三字ノ音訓ヲ二字ニ縮記セシ者アリ假令ハ勝負ヲ「セウブ」ニ龍ヲ「レウ」ニ重ヲ「テウ」ニ略記セリ然キハ其下ニ「」ヲ記シテ之ヲ區別セリ

一 譜曲ニ用ヒタル新綴ノ文字即チ勝負、龍、重、等二訓ニ縮記スル者ト雖モ唱歌ノ時ハ務メテ三訓ノ發音ト意義ヲ失フヘカラス蓋毎句ノ舉動ヲ齊一ニナサンガ爲メ止ヲ得ス略案假用セリ讀者本文ニ就テ正スヘシ、

記セリ

小杉 榎 郎
谷 勤

先生 校閱

卷 出征歌	……六
一 進擊歌	……一二
目 步兵歌	……二八
次 騎兵歌	……三二

近衛軍樂隊長
 陸軍一等軍樂長 四元豐義殿 校調
 陸軍軍樂基本隊
 陸軍一等軍樂手 永井建子君 調曲

No 20742/22

緒言

音樂トハ諸音ヲ調和スルノ術ニシテ所謂美術ノ最モ高尚ナル者ナリ其學極メテ博シ

我陸軍ニ於テ歐洲流ノ軍樂ヲ採用シシハ既ニ久シ蓋シ明治四年十二月八日三兵喇叭ヲ兵學寮ニ管理セシニ胚胎シ同八年十月二十日軍樂隊概則ヲ頒布セシニ成形シ爾來幾多ノ星霜ヲ經過シ遂ニ今日彼ノ如ク健然トシ發育セリキ

今ヤ陸軍戸山學校ニ軍樂基本隊ヲ置キ專ラ樂手ヲ養成シ斯道ノ振擴ヲ計畫セリ既ニ近衛大阪ニ各一軍樂隊ヲ設置シ進テ又將ニ六師團ニ設備セントスルノ盛況ニ進運セリ而シテ其學術ニ至テハ日ニ月ニ進歩シテ共ニ高尚美妙ノ程度ニ達シ業ニ己ニ日本歌ヲ曲作シテ各種樂器ニ分賦シ之ヲ合奏スル者甚ク多シ是ヨリ美術ノ益々進歩シテ日本音樂社會ニ一新現象ヲ呈スル期シテ見ルヘキナリ

十八年六月廿五日陸軍教導團(當時軍樂基本隊ハ)ニ於テ古歌一二ヲ撰ミ歐洲ノ發音ニ模擬シ曲譜ヲ制作シテ以テ軍歌トナシ之ヲ兵學ノ一部ニ採用セラレシト上申セリキ是レ我邦軍歌始行ノ紀元ナリ其後在京各隊ノ喇叭長以下若干名ヲ撰拔シテ軍樂基本隊ヘ通學セシメ漸次各隊ニ

傳習セシムニ非常ノ好評ヲ博シ期年ヲ出スシテ全國各隊ハ勿論延テ小中學校生徒ニ及ブマテ一般ニ之ヲ唱用スルニ至レリ實ニ驚クヘキノ盛況ナリ

夫レ然リ方今世ニ行ル、所ノ軍唱ナル者其種類頗ル多シ拔刀隊、行軍、進軍、軍旗、日本魂、扶桑、復古、正成遺訓、小楠公其他新古歌幾多ナルヲ知ラス而シテ其拔刀隊、軍樂基本隊教師佛國步兵第七十八聯隊樂長心一、アシユル、

一氏ノ曲作ニシテ音調頗ル壯快ナリ只惜ラクハ稍々急激ニシテ其勇發剛健ノ進勢ハ歩々蹈着ノ強激ヲ免レヌ之カ爲メ行唱停止ノ後ハ痛ク身体ノ疲勞ヲ感シ長途行軍等ニハ適當セサル者ニ似ク其或ハ歌旨ノ軍情ニ適シサル者アリ或ハ句法ノ步法ニ調合セサル者アリ蓋詠歌セシ人ノ目的ト曲作セシ人ノ情習ト此二者我軍情ニ疎遠ナルノ致ス所カ況ンヤ市村ニ行ル、所ノ軍歌ナル者ハ發音良ナラズ曲節佳ナラス聞ニ堪ヘサル者アリ願フニ口唱遞傳ノ流訛シテ遂ニ眞ヲ失ヒシナルヘシ浩歎ノ限リト云フヘシ抑、軍歌ナル者ハ唱歌ノ行吟ニシテ一分時間ニ唱歌ノ舉動「メートロナム」ノ百二十ニ正合シ以テ步法ニ適合スル者トス我步兵ノ常歩ハ踵ヨリ踵マテノ距離七十「サンチメートル」(凡曲尺凡尺)ニシテ一分時間ニ百貳十歩ヲ行進スル者ナリ故ニ本集ニ於ケル「ムシユール」我ハ

歩兵ノ常歩四歩ニ適合スル者ナリ

夫レ軍歌ハ歐洲各國ニ在テハ兵學ノ一科業トナシ常ニ行
軍等ニ之ヲ唱用シ士卒ヲ鼓舞シ士氣ヲ發揚セリト我軍隊
ニ軍歌ヲ採用セシハ日尙ホ淺シト雖大ニ士氣ヲ發揚シ
傍ラ士卒ノ健康ヲ補育セシ者少カラス今後軍歌ノ益進
歩シテ正良完美セハ啻ニ千里長驅ノ疲勞ヲ脱スルノミナ
ラス一朝事ニ臨ミ勇戰要ヲ衝キ健闘壘ヲ攻メ生命ヲ賭シ
雌雄ヲ決スル最大危急ニ際會シ進歌揚々嗚噉止ムナク
ハ則チ其結局如何ソヤ今日ノ豫想シ及フ所ニアラス必ス
ヤ稜威ヲ發揮シ三千餘万ノ大望ヲ塞クヲ得ヘシ
嗚呼斯ノ如キハ則チ軍歌ハ啻ニ兵學ノ一科業ノミニアラ
ス實ニ軍政ノ最終目的ヲ決行スルノ要具ナリ况復泰平無
事ノ世ニ在テハ野卑淫傷ノ俗歌ヲ掃蕩シ良風美俗ヲ誘成
シ隱然政教ヲ優助スルコト亦甚タ少トセス是レ余ノ剪劣ヲ
省ミス筆ヲ執ル所以ナリ但恐ル巴調意義適切ナラス風韻
瀏亮ナラス軍歌其物ノ聲價ヲ損センコト今數篇脱稿セシテ
以テ即チ軍歌集ト題シ茲ニ其卷一ヲ出版セリ近頃又將コ
數篇ヲ脱稿シ相續テ卷ヲ追ヒ大方諸君ノ瀏覽ニ供セント
ス幸ニ一唱ノ榮ヲ賜ラハ幸甚

明治廿二年九月

編者謹誌

唱 合



前... ススメヤ ススメー ヒノモトノー アサヒー カカヤリ グンキチ パー



後... ヒラヒラ ヒラトー ヒルガヘシー テキチ トリコニ スルマデ ハー



前... ススメヤ ススメー ホヘイタイー アサヒー カカヤリ グンキチ パー

前... ススメヤ ススメー キハイタイー タヅナチ ヌルメテ ムチチイ レー



後... ヒラヒラ ヒラトー ヒルガヘシー テキチー トリコニ スルマデ ハー

後... テキノー ムラガル ソノナカヘー コマチー ハヤメテ ススムベ シー

出征歌
進軍歌

步兵歌
騎兵歌

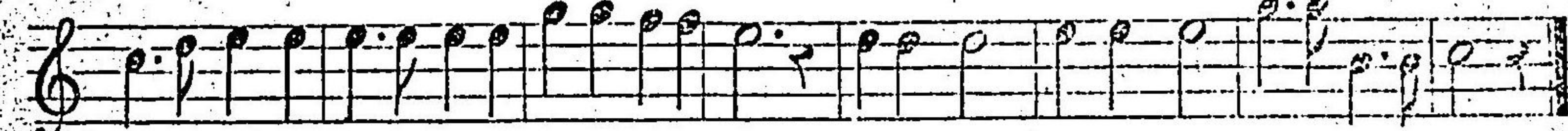
步兵歌
騎兵歌

五

出征歌 單唱



第七...コラウノクコノ一サイラウハ一キミノ一アダナリタミノアダ一
 第八...メグミニニアフル一テキコクハ一エシキニアキシ一サイラウヅ一
 第九...オンチ一アダニテムクイタル一メシウトケモノハムカシヨリ一
 第十...フガクニノボル一ユウレウハ一コウテツカソノ一ケムリナリ一
 第十一...シカイチカコム一ヘイカンハ一イツレノクニノ一ナニモノヅ一
 第十二...フネモ一トリテモウチヤブリー一サイラウトラヘ一イクトシノ一



第七...サソゼンヨマン一ドウホウノ一ケンリノタメノ一コウテキヅ一
 第八...ツミナキモノチ一キズツケテ一スンチ一アダニテムクイケリ一
 第九...コノヨニナガク一ナガラヘテ一サカエシモノヅ一ナカリケル一
 第十...ナミマニオドル一ケイゲイハ一スイライセソノ一マウケナリ一
 第十一...コレヅ一コラウノクニナラソノ一イデヤ一ススミテウチハラヘ一
 第十二...ウラミチムクイ一ワガクニノ一ミイツチヨモニ一カカヤカセ一

出征歌 單唱



第一...コクビーセメウツテキコクハ一セカイニヒビク一ブソメイ一
 第二...テンユウウケシ一オホギミハ一アマツ一ヒツギノハシメヨリ一
 第三...セイトクフカキ一マツリゴト一クサキニオヨブ一アメカゼト一
 第四...メグミニナレシ一テキコクハ一ヒコマシツキニ一ホシイママ一
 第五...ハンコクカイギ一ウチヒラキ一セヒチ一ワカナシハンケツモ一
 第六...セヒナキミチニ一フミマヨイ一セヒナキコトチ一オコセシハ一



第一...フケウニホコル一ゴウマンノ一アドウノワザヅ一イトコクキ一
 第二...ナイガイハンキ一オルヨリモ一オホク一キセイノリウセイツ一
 第三...オナシクウルフ一ニシヒカシ一チキウノヘダテ一ナカリケリ一
 第四...メイフコアリシ一タマツサモ一ホゴコ一オナシクミナシケリ一
 第五...ケフノ一イマコソカナシケレ一セヒナキサカイ一セヒモナシ一
 第六...イツレノクニノ一ナニウウカ一コロウノクノ一サイラウヅ一

出歌

第一

今般征討敵國は
富強よ誇る傲慢の

世界にひく文明の
無道の仕舞最と悪き

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第二

天祐受し皇帝は
内外萬機織よりも

天津日繼の始より
多く稀世の隆盛ぞ

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第三

垂徳無量仁政
同く周浴ふ東西

草木におよぶ雨風と
地球の隔てなかりけり

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第四

寛仁に慣し敵國は
盟府にあらし法典も

日に増し月に専横
反古に同敷見なしけり

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第五

萬國會議打開き是非を審査し判決も
今日の今時こそ悲けれ是非なき境遇是非もな

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第六

是非なき境域に踏迷ひ
何れ國の何王か 虎狼の國の豺狼ぞ

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第七

虎狼の國の豺狼の
三千餘萬同胞の

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

第八

愛恵に溢る敵國と
罪なき者を吞筮けて

合唱

進めや進め日本の
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗をば
敵王を生擒にする迄

進 撃 歌 單 唱



第一...ケフノーイクサノホウサクハー ゴウホウミツノーアヒツコテー
 第二...リウダソフカクールイテイニー ヒラク一ギシンノオトモアリ
 第三...テキモ一ミカクモイリミダレー フルフ一カタナノイナツルヒ
 第四...マソテンナガスー スルスミノー ケムリニツドフ一イナツマハ
 第五...コナタニスワノ一テツシウチー カケシ一フナバシゴウゴウト
 第六...カナタニイタク一ウチヤブレー ワシリ一シリグクテキヘイハ



第一...ホキホウコウモ一イナドキニ一 トキチ一 ツクリテススミウチ一
 第二...リウサソダソノ一ハレツシテ一 ニハカニ一 オコル一 ライモアリ一
 第三...ガセニ一 ナビケルコウハクノ一 ハダハ一 ホチソムキヘイタイキ一
 第四...ホヘイノツツノ一ヒカリナリ一 ゲニコモ一 ホヘイノヘイモアリ一
 第五...サキチ一 アラツフセツノ一 ワタル一 ウカイル一 ノヘイマン一
 第六...ブレツケデキ一 トウハツノ一 ギラ一

前

後

十一

第九 單唱
 恩を仇にて報いたる 罪人と悪賊
 現世に長く...

合唱
 進めや進め日本の
 敵王を生擒にする迄

第十 單唱
 富嶽に登る蛟龍の
 甲鐵艦の炭煙なり
 水雷船の機装なり

合唱
 進めや進め日本の
 敵王を生擒にする迄

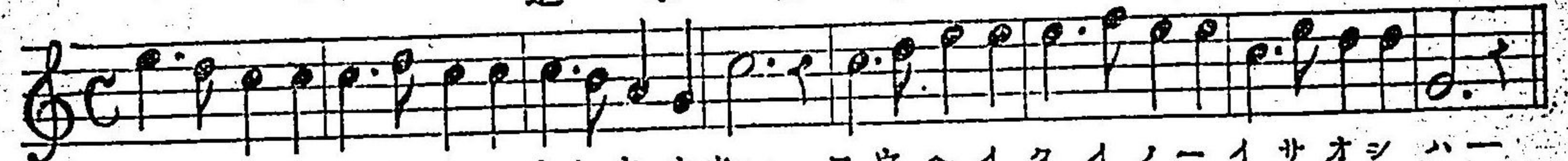
第十一 單唱
 四海を封鎖む兵艦の
 何れの國の何者ぞ
 いでや進みて打拂へ

合唱
 進めや進め日本の
 敵王を生擒にする迄

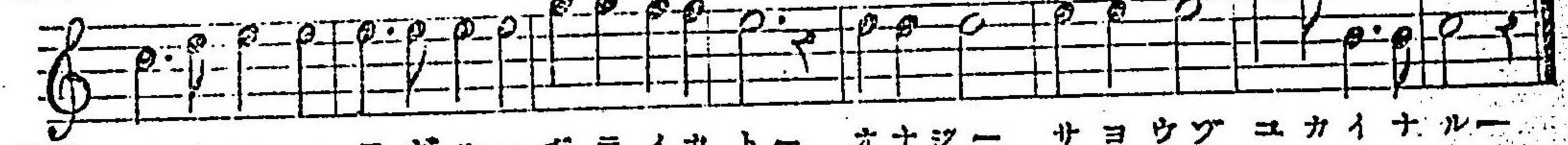
第十二 單唱
 軍艦も城塞も打破り
 豺狼生擒へ幾年の
 稜威を四方に耀せ

合唱
 進めや進め日本の
 敵王を生擒にする迄

進撃歌 單唱



第七... イ ク サ ノ ツ ト メ オ ホ キ ナ ガ ー コ ウ ヘ イ ク イ ノ ー イ サ オ シ ハ ー
 第八... ス ス メ ヤ ス ス メ ー ワ ガ ト モ ト ー ウ ト フ ー グ ノ カ ノ コ エ タ カ タ ー
 第九... シ ニ ニ ー ア リ サ カ ク ル マ コ ツ ー カ タ ワ ト タ ノ メ ー ブ シ ノ ハ ナ ー
 第十... キ ネ モ ー タ ズ ヨ フ セ ノ ケ ツ ハ ー ヨ シ ノ ー タ ツ タ ノ ハ ナ モ ミ シ ー
 第十一... ケ フ ノ ー イ シ サ ノ イ サ マ シ サ ー カ ク グ ノ ズ ノ ー セ ノ ヘ イ ハ ー
 第十二... ケ フ ノ ー イ シ サ ノ タ ノ シ キ ハ ー テ キ ノ ー ト リ テ チ ウ チ ヤ ブ リ ー



第七... イ ナ シ ニ ア ガ ル ー ギ ラ イ カ ト ー オ ナ シ ー サ ヨ ウ ツ ユ カ イ ナ ル ー
 第八... ハ コ ブ ー ヘ ウ ラ ウ ダ ノ ヤ ク ノ ー ユ キ ツ ー キ タ リ ツ シ テ ウ ナ イ ー
 第九... ナ ウ ギ ノ カ ゼ ニ ー フ キ ミ ズ レ ー ケ フ チ ー カ ギ リ ト サ キ ソ ロ フ ー
 第十... ア ラ シ ノ カ ゼ ニ ー ナ リ ミ ズ レ ー ナ ニ シ キ ー ナ ミ テ ル ー フ ゼ イ ナ リ ー
 第十一... セ ソ グ ノ バ ソ バ ー シ ツ ズ シ テ ー リ ウ コ ノ ー ア ラ ソ イ ハ イ ゲ シ ケ レ ー
 第十二... テ キ ノ ー ズ ー キ チ ウ バ ヒ ト リ ー テ キ ノ ー タ イ セ ウ イ ケ ド ラ ー

進撃歌

第一 單唱

今日の戦國の方策ハ
 歩騎砲工も一時に

號砲三發の合圖よて
 國波と發唱て進撃

合唱

進めや進め日本の
 翻々ひらと翻へし

旭日かやく軍旗をバ
 敵王を生擒にする迄ハ

第二 單唱

榴彈深く壘底よ
 榴霰彈の破裂して

爆裂地震の響音もあり
 俄然に鳴動る萬雷もあり

合唱

進めや進め日本の
 翻々ひらと翻へし

旭日かやく軍旗をバ
 敵王を生擒にする迄ハ

第三 單唱

敵も味方も入り亂れ
 腥風も靡ける紅白の

奮揮ふ洋刀の電光
 槍旗の血に染騎兵隊

合唱

進めや進め日本の
 翻々ひらと翻へし

旭日かやく軍旗をバ
 敵王を生擒にする迄ハ

第四 單唱

満天流す磨墨の
 歩兵の小銃の銃火なり

砲煙に伴ふ電光ハ
 實にも歩兵の勇々敷き

合唱

進めや進め日本の
 翻々ひらと翻へし

旭日かやく軍旗をバ
 敵王を生擒にする迄ハ

第五 單唱

此方又諏訪の鐵舟と 架設し船橋森々と
先登を争ふ撰抜の 渡る迂回の兵もわり

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

第六 單唱

彼方又痛く打敗れ 潰走り退却く敵兵
「ブレッツケ」電氣踏發の 地雷に斃る數萬兵

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

第七 單唱

戦場の萬務多き中 工兵隊の功勞
一時に發揚る地雷火と 同じ作用ぞ愉快なる

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒する迄

第八 單唱

進めや進め我戰友と 歌ふ軍歌の聲高く
運搬兵糧糧彈藥の 往つ來つ輜重隊

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

第九 單唱

國家に有坂車こそ 片輪と頼め武士の花
忠義の風に吹き亂れ 今日を限りと咲き揃ふ

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

第十 單唱

杵も漂ふ戦血の 吉野龍田の花紅葉
嵐の風に散亂 地に敷滿てる風情なり

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

第十一 單唱

今日の戦鬪の勇壯さ 各軍團の全兵
千軍萬馬叱咤して 龍虎の争鬪激烈けれ

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

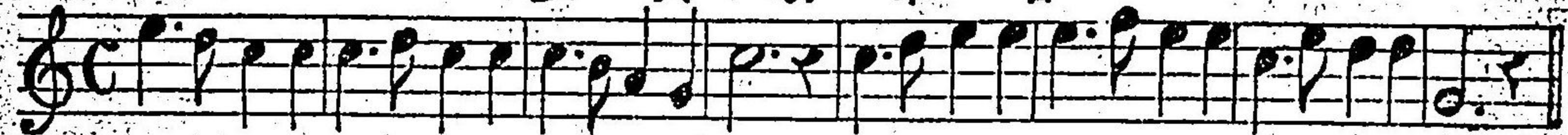
第十二 單唱

今日の戦鬪の愉快の 敵王の城塞と打破り
敵軍の軍旗と奪取り 敵軍の大將生擒らん

合唱

進めや進め日本の 旭日か、やく軍旗をバ
翻々ひらと翻へし 敵王を生擒にする迄

歩 兵 歌 單 唱



第五...キダレヤキダレ一ツガトモヨ一 コウメイテガラ一 アラハシテ一
 第六...コウヒノホマレ一シヘンノナ一 マツリノヨハノ一 イシノフミ一
 第七...クモコ一ソビユルダイカヘウ一 シンギノカドノ一 オクフカク一
 第八...ヤマト一ゴコロノコウエンチ一 アツブ一サンゼンヨマンコン一



第五...フボノ一メグミヤキミノオソ一 ムクイテミヨノ一 タミトナレ一
 第六...チヨニ一ノコシテクモリナキ一 カガミチシメス一 シダンザカ一
 第七...テンコ一カカヤクデンキトウ一 ナウギノミチノ一 ミチシルベ一
 第八...ケフノ一ナウシンキクナラハ一 ツノヨロコビハ一 イカナラソ一

前

十七

歩 兵 歌 單 唱



第一...テンユウウケシ一ヒノモトノ一 ブユウニタケキ一 シンヘイノ一
 第二...シユラノチマターモリハヤシ一 ギユミントチノ一 コトサラニ一
 第三...モシモ一キシウニテアヒナハ一 カタナハヒダリーヤリハミキ一
 第四...モシモ一オホツツハナツナラ一 ススミテアヒダ一チヂムヘシ一



第一...ツツハ一シウレンシウバツデー一 メイチウタダシキムラタシウ一
 第二...シモノ一アシタモツキノヨモ一 マナビシブドウ一イトフカシ一
 第三...チカキハスグニ一ウチハナチ一 トホキハヨリテ一ウチハラ一
 第四...ススミテアヒダ一チカツケハ一 シウケンフルヒ一ツキハラ一

前

後

十六

單唱 第一

天祐受し日本の
手銃の十連十發で

武勇は猛き神兵の
命中正しき利田銃

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第二

修羅の隘路森林
霜の朝も月の夜も

住民土地の特別法
講習し武道最と深し

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第三

若も騎襲よ出會へ
近距離は直よ放撃

軍刀の左側槍の右側
遠距離の併合で射撃へ

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第四

若も大砲放なら
躍進て距離近接の

前進て距離減縮へし
銃、劍揮ひ突撃へ

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第五

來れや來れ我战友よ
父母の惠や皇帝の恩

功名手柄顯して
報て明治の良民となれ

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第六

碑口の譽史編の名
千代に遺して學なき

靖國神社の碑石の文
龜鑑を表す九段坂

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第七

雲に聳ゆる大華表
九天に輝耀く電氣燈

仁義の門の奥深し
忠義の道の道案内

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

單唱 第八

大和魂の公園地
今日の注進聞なら

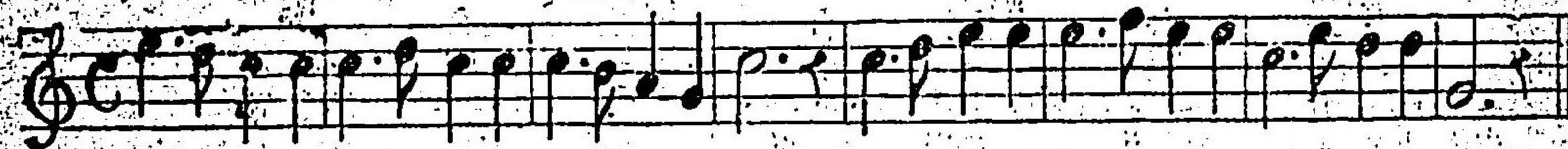
遊ぶ三千餘萬人
其喜の如何ならん

合唱

進めや進め歩兵隊
翻々ひらと翻へし

旭日か、やく軍旗を
敵王を生擒にする迄

騎 兵 歌 單 唱



第五...テキトーミカタハアマノガハー コシトーヒガシニカケハナレー
 第六...シメンチカコムーホウエンハー ハルノーカクミニアキノクモー
 第七...サレドーナニオフヒノモトノー センリノウマハーコエアキター
 第八...ムラガリツドウーテキヘイハー ハラハラハツトームラチドリー

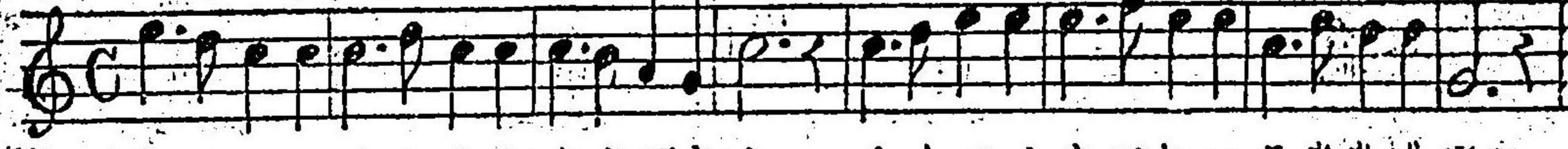


第五...グンバノチクモー シンタイモー ゲニコソナソグーオホカリキー
 第六...ヨモニーフリクルダソガソハー アラシノニハノーアメアラレー
 第七...シユラノチマクチヨコクテニー イウヤクフルグーイサマシキー
 第八...ソモーノミミミトノゾー ケフノーイクサアユカイナレー

前

二十
後

騎 兵 歌 單 唱



第一...ウマハースルスミイケツキトー メイバノホマレータカカリシ
 第二...ソピラニオヒタルムラタジウー コシニートリハグサーペルトー
 第三...ムネノーカザリヤヒノツボノー ビレイーキハメシグンサウハ
 第四...イマシーイクサノアリサマハー オホツツコツツーシンカシター



第一...センシハマサシゲマサツラトー ヤウギノホマレータカカリキ
 第二...テゴロノヤリトーピストールー トモニーヒトツノツハモノグ
 第三...イクサノニハニーサキガケノー セントウスベキーシルシナリー
 第四...タマトブミチノーイトトホクー タタカフオモテーヒロカリキ

前

後

二十

騎兵歌

第一

軍馬の磨墨池月と 名馬の譽高かりし
戰士の正成行と 忠義の譽高かりし

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第二

背後に負たる村田銃 腰間に執佩「サーベル」と
手携い槍と「ピストル」共に一對の利器ぞ

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第三

胸部の飾緒や緋の短袴 美麗極めし軍装の
戦鬪の場所又魁の 先登すべき名譽章なり

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第四

方今作戦の現状の 大砲小銃進化して
彈丸射距離の最遠く 戦鬪局面廣かりき

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第五

敵軍と味方の天河 西と東に懸離れ
軍馬の馳驅も進退も 實に困難ぞ多かりき

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第六

四面を圍む砲煙の 春の霞に秋の雲
四方は降來る彈丸の 嵐の庭の雨霰

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第七

されど名に負ふ日本の千里の駿馬は肥飽て
修羅の巷縦横に 踴躍するぞ勇壯き

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

第八

群集ふ敵兵の はらはらはつと撥千鳥
雲を霞に立去りし 今日の日戦鬪ぞ愉快なる

合唱

進めや進め騎兵隊。鞭鎖と緩て鞭と揮れ
敵兵の群集る其陣中へ軍馬と疾驅て蹂躪べし

廣告

二十四

河伯道士著

衆妙之門 全一册

定價金貳十錢
郵送金八錢

父母タル者其子女ノ幸福ヲ圖ントナラハ本書ヲ讀メ
子女タル者未來ノ幸福ヲ得ントナラハ本書ヲ讀メ府
內各書林ニアリ

實費發行廣告

萩島民藏、藤井竹一編輯

兵林提要 全一册

最上等洋本仕立 定價六十錢
四百十四ページ 郵送十八錢

全編七章其第一章ハ人口、地理、保存城、各地燈臺ノ
色別、各港、里程、軍管各所ノ里程第二章小銃砲煩ニ
關スル一切就中各國軍用銃ノ尺度及効力ヲ詳記セリ
第三章各國彈藥火具ノ品質尺度製式及其性能成蹟ヲ
記シテ洩スナシ第四章小銃大砲ノ射撃ニ關スル諸効
力第五章火藥、火具、防蝕、着色、塗抹、諸劑ノ配合分
析極メテ詳ナリ第六章各國ノ度量衡並貨幣ノ比較第
七章諸器械ノ用法並算式等ヲ詳カニ表式ニ准ヒ簡便
ニ記セリ實ニ懷袖ノ寶典也茲ニ減價シテ一部實
費三十六錢ニテ呈ス

學習院長宮中顧問官

陸軍中將從三位勳二等子爵三浦梧樓閣下題字

高等師範學校長

陸軍少將正五位勳三等 山川浩閣下序

第三高等中學校体操教官

助教 大西龜三郎君序

改正 體育教範 全一册

定價金五拾五錢
郵送料金拾八錢
製本ノロス金字入ノ
上等洋本仕立也

陸軍戶山學校教官

陸軍步兵中尉正八位勳六等神代三郎殿 校閱

陸軍教導團小隊長

陸軍步兵中尉正八位 田中次郎殿 校閱

陸軍戶山學校助教

陸軍步兵曹長 宇野時親君 實業審議

改正發行法

目次

- 一 大ニ減價シテ一部實費金
- 二 三拾五錢ニテ廉呈ス (郵送如前)
- 一 東京市内ハ報知次第配達
- スヘシ市外並他府縣ハ十部以上遞送料一部ニ付六錢宛二十部以上無遞送料
- 一 前金ニアラザレハ一切遞

- 第一編 總則
- 第一章 目的
- 第二章 教師ノ心得
- 第三章 號令法
- 第四章 靜止及整頓法
- 第二編 柔軟体操
- 第一章 例則
- 第二章 停止演習
- 第三章 行動演習
- 第三編 器械体操
- 第一章 一般ノ規則

二十五

送セヌ尤モ校名職名姓名
ヲ詳記シ且ツ校印並實印
アル者ハ此限ニアラス
一送金ハ當開宛ニシテ爲替
ハ四ツ谷郵便局へ振込ノ

第二章 教師ノ注意
第三章 實技演習
第四編 歩法學
第一章 歩法學
第二章 歩法學
第五編 縮圖
第一章 縮圖

右ハ舊陸軍士官藤井竹一君ノ著作ナリ抑、本書ハ小中學
校体育教科書ニ用ヒント欲シ同學生徒ニ適當ナル兵式ノ
精華ヲ一本ニ編輯シ體育學ノ實行ヲ便ニシ且之ニ由テ本
學ノ隆盛ヲ企圖セシ者ナリ稿脫シテ陸軍省へ伺出テ出版
ノ業ヲ終ヘ文部省ノ檢定ヲ出願シ今又各府縣へ製本壹部
ヲ添ヘ教科書ニ採用ヲ願出タリキ本書ハ全編二百七拾餘
頁編中鮮明ナル實地演習ノ現圖百八拾餘ヲ挿入シ之ニ明
瞭ナル註解ヲ施シ末尾ニ於テ精確ナル縮圖ヲ掲ケ一閱シ
テ兵式体操及運動等ヲ了解スルノ最新尤逸ノ良書ナリ蓋
シ本書ニ關係アル諸君ハ皆ナ其專門家ニシテ特ニ嶄然拔
群ノ名譽ヲ博セラレタルハ名士ナレハ本書ノ良否亦何ッ
喋々多辨ヲ費スヲ要セシヤ伏願スル學務ニ從事セラル、
諸君子夙ニ御覽ヲ賜リ編者ノ微志ヲ御贊揚アラソコ

東京牛込區市ケ谷谷町四十八番地
明治廿二年九月
鈴木閣頓首

明治廿二年九月廿五日印刷
全 全 年十月一日出版

正價金五錢

版權登錄

印刷者 露木音次郎
東京神田區連雀町十八番地
發行所 藤井竹一
東京牛込區市ケ谷谷町四十八番地寄留

軍歌集發行法

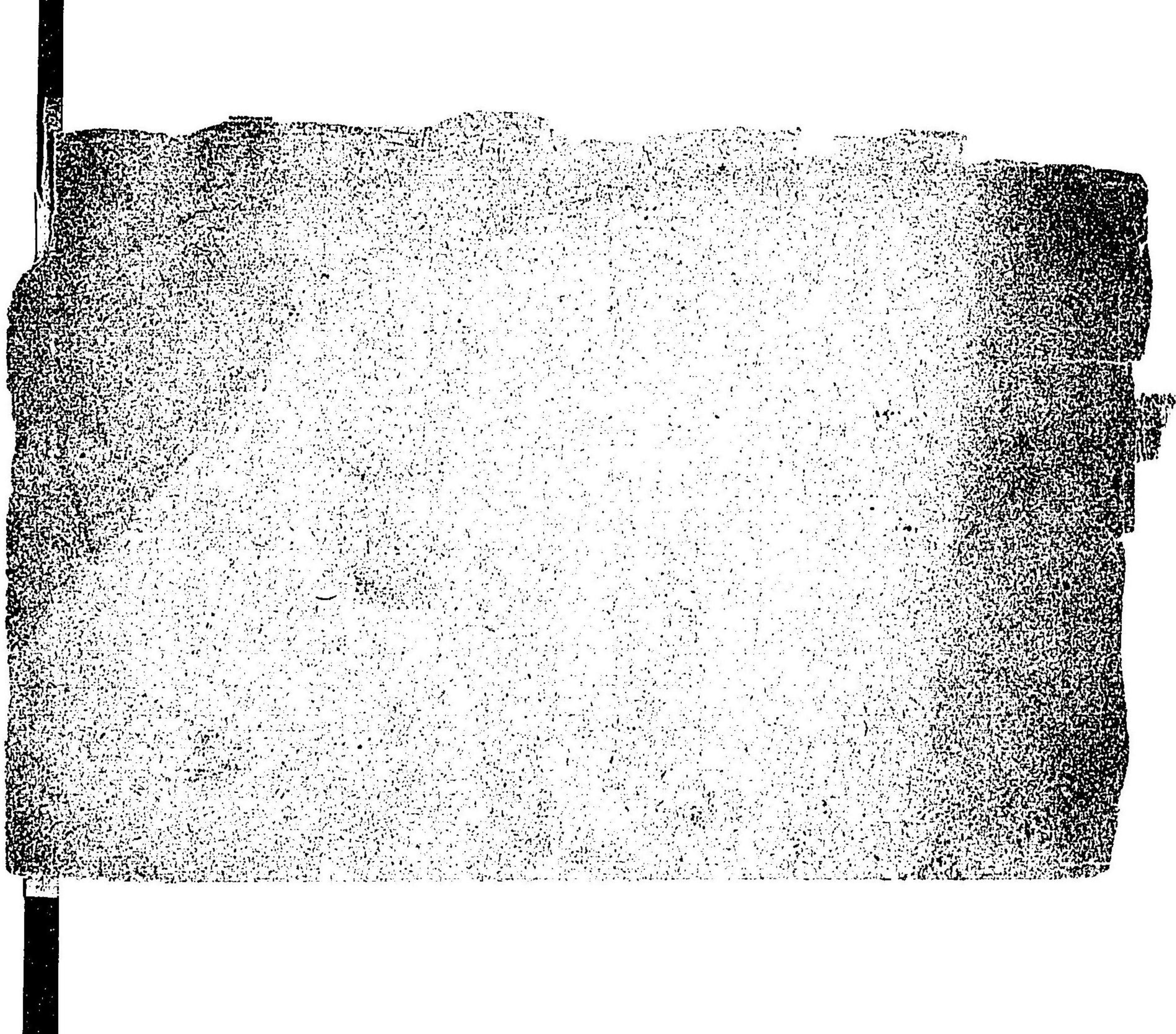
- 一 一部郵送料 錢五十部以上半額百部以上無遞送料ノ
- 一 各隊中隊 每ニ各學校へ見本トシテ特ニ三部ヲ廉呈ス希望
ノ方ハ郵券 錢一部ヲ投スヘシ
- 一 前金ニアラサレハ一切送本セス郵券代用ハ一割増ノ
- 一 郵便爲替必ス四ツ谷郵便局ニ限ル且ツ鈴木閣へ向ケ
振込ノ

軍歌集卷二目次近刻

- 一 砲兵歌
- 一 工兵歌
- 一 凱旋歌
- 一 會葬歌

東京府東京市牛込區市ケ谷
谷町四十八番地

軍歌發行所 鈴木閣



072983-000-0

特23-727

軍歌集

永井 建子/曲

M22

CEH-0521

